

2020年(令和2年) 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。皆様には東部ファスナー協同組合に対し、格別なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げますと共に、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと私たちの感情を刺激する出来事が毎日のように世間を騒がせておりました。

世界に目を向けると、米中貿易摩擦の長期化、EUにおけるブレグジット問題、混乱の続く中東情勢、日韓関係の悪化、香港デモなど、各地で緊張が続き不安を抱きながら動向を見守る状況となりました。国内では次々と上陸した台風により、大雨による河川の氾濫や暴風により家屋、施設の浸水、倒壊など大きな被害を引き起こしたり、京都で起きた凄惨な放火事件、あおり運転や高齢者ドライバーによる事故が多発したりと、大きな影を落とす出来事がありました。

しかし暗い話題ばかりではなく、令和へと元号が移り、新天皇が御即位され祝賀ムードに日本中が包まれるなか、特にスポーツ界において多くの明るい話題がありました。女子ゴルフの渋野日向子プロが全英女子オープン優勝、八村塁選手がNBAで活躍、そしてラグビーワールドカップでは日本中が「ONE TEAM」となり熱く応援するなか日本チームがベスト8に入るなど、多くの日本人の活躍が世界中に知れ渡り、大きな励みとなりました。

そのような明と暗、喜怒哀楽が日々交錯しながら私たちを取り巻き、感情が大きく揺動かされた年だったと言えるのではないのでしょうか。

そして、そのような感情が刻一刻と変化しながら世界中を時差なく駆け巡り、経済においても大きな影響を与え、予測が困難で不透明な状況が今年も続いて行くのではと感じております。

今年は子年です。株式市場では「子年は繁栄」と言われており株価が上昇する年と言われているそうです。そして何より東京オリンピック、パラリンピックが開催される年であり、昨年のラグビーワールドカップに引き続き世界中の人々が日本を訪れインバウンドを含めた経済効果が期待されております。

そのような時流の中で私たち組合は、組合員そして業界に対しどのような活動をしていけばより良い未来を作りだしていけるのかを思案し、皆様からの闊達なご意見をお聞きしながら有益な活動に繋げていきたいと考えております。

本年も組合員各位におきましては、この協同組合という「相互扶助」を理念としたコミュニティへの積極的な参加、ご活用をお願いすると共に、皆様にとりまして更なる飛躍の年になることを祈念申し上げまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

東部ファスナー協同組合  
理事長 望月紀人